5　ふるさと能代の動物

1　能代の動物

動物というと，ふつうはキツネなどのほ乳類のことを思いうかべますが，正確にはほ乳類，鳥類，魚類などのほか，昆虫やけんび鏡でないと見えないような小さな動物もいます。

動物を二つに大きくなかま分けすると，せ骨のない動物とせ骨のある動物に分けられます。せ骨のない動物にはクラゲ，ウニ，ミミズ，貝，昆虫などがいます。せ骨のある動物には魚，カエル，ヘビ，鳥，キツネなどがいます。

能代市とその周辺にはどんな動物がいるのでしょうか。

くわしく調べられていないのでよくわかっていませんが，せ骨のある動物では，魚のなかまは米代川や常盤川，真瀬川，浅内沼などの淡水にウグイやボラ，ヤリタナゴなど50種類以上，カエルやイモリのなかまはトノサマガエル，トウホクサンショウウオなど14種類くらい，ヘビやトカゲのなかまはマムシやトカゲなど７種類くらい，鳥のなかまは200種類以上，ほ乳類はネズミ類やコウモリ類をのぞいてカモシカやキツネなど10種類くらいです。

カワセミ

一方，せ骨のない動物はとてもたくさんの種類がいます。昆虫のなかまだけで数万種類もいるでしょう。

能代市とその周辺には野山があり，川があり，海がありますので，いろいろな動物がいろいろな生活をしています。中にはめずらしいものもいます。

国際自然保護連合の1996年（平成８年）の発表では，地球上のほ乳類の４分の１の約1100種類のほか，魚や鳥など合わせて約5200種類の動物が絶滅のおそれがあるとしています。地球は人間だけのものではありません。わたしたちはすべての動物を守りながら，共生していかなければならないのです。

モリアオガエル

カモシカ

2　家のまわりや田畑の動物

（1）花に集まる昆虫

春，花がさき始めると昆虫がみつや花粉を求めて花に集まります。春，一番先にさいたフクジュソウの花には，まだ少し寒いのにミツバチがもう集まっています。

秋，ほとんどの草花がかれて，わずかに残っているノアザミの花では，セセリチョウがみつをすっています。

チョウと花とは関係が深く，チョウは花からみつをもらい，花はチョウから花粉を遠くの花へと運んでもらいます。

でも，花に集まる昆虫はチョウやミツバチだけではありません。カミキリムシやハエのなかまもよく花に集まります。

注意して観察すると，昆虫の種類によって集まる花の種類もあるていど決まっているようです。

身近にきれいな花がたくさんさいて，昆虫がいっぱい集まってほしいです。

ブチヒゲカメムシ

ミツバチ

アゲハ

ベニシジミ

（2）家のまわりの昆虫

家のまわりにもたくさんの種類の昆虫がいます。市街地でもスジグロシロチョウが飛んでいたり，サンショウの木にアゲハが卵を産んだりします。

また，アシナガバチがのき下に巣をつくったり，時にはスズメバチやトックリバチも巣をつくったりします。街路樹の下のわずかな草むらでもコオロギが鳴いています。

昼はツバメ，夜はアブラコウモリが町中を飛んでいますので，えさの昆虫もけっこういるのでしょう。

庭があったり，近くに空き地や畑などがあると昆虫の種類はぐんとふえます。アリ，テントウムシ，コガネムシ，トンボ，セミ，バッタなどさまざまです。時間をかけて調べてみるとおもしろいでしょう。

昆虫ではありませんが，クモやムカデ，ミミズ，カタツムリなど，家のまわりにもおどろくほどたくさんの種類の動物がいます。

オオニジュウヤホシテントウ

ノシメトンボ

アブラゼミ

(3) 家のまわりにくる鳥

キレンジャク

シジュウカラ

家のまわりでも多くの鳥を観察できます。スズメやハシボソガラスはいつも見ることができるし，ムクドリは小屋ののき下に，カワラヒワは庭の木に巣をつくり，ひなを育てます。シジュウカラは街路樹のわれ目でひなを育てたりします。

少し注意して見ると，春先には北へ帰って行くハクチョウやガンなどが空を飛んでいるのを見ることができます。

市街地をはなれた緑の多い地域では家のまわりでもっと多くの鳥と出会うことができます。

キジがうらの草むらから顔を出すのを見たり，カッコウやホトトギスの鳴き声を聞くこともできます。ときにはウソやアオジなど，山の鳥を見ることもあります。季節は春が一番多いでしょう。

鳥の観察には双眼鏡が必要です。双眼鏡で見ると，はっとするほど，鳥のみごとな姿や生活のようすが見えてきます。

3　川や沼の動物

(1) 魚

米代川や浅内沼にはウグイやコイやナマズなど，たくさんの種類の魚がすんでいます。

トミヨ

タイリクバラタナゴ

アユ

イワナ

常盤川や檜山川，水沢川の上流にはヤマメやイワナもいます。

しかし，水のよごれや川岸がコンクリートで固められたために，数が減ったりいなくなってしまった魚もいます。たとえば，昔は米代川にもトミヨがいましたが，今ではわき水が流れこむ小川でやっと見つかるていどです。

小川や沼などにすむタナゴのなかまは貝の中に卵を産みますが，水のよごれのためにほとんどいなくなってしまったところがあります。

(2) エビ・カニ・貝のなかま

最近は，川や沼の周囲をコンクリートで固めることが多くなりました。こうした環境の変化にも，たくましく生きているタニシやモノアラガイを見つけることができます。

外国からやってきたアメリカザリガニも，日本の環境の中でたくましく生きています。

一方では，サワガニなどのように，ちょっとした水のよごれで死に絶えてしまう生き物もいます。沼や川にいるエビはずいぶん少なくなりました。

沼や川にはわたしたちの生活排水などよごれた水が流れこんでいます。これでは水の中の動物はたいへんです。水をよごさない計画を各家庭や市や町で立てて実行しなければなりません。

アメリカザリガニ

サワガニ

モノアラガイ

カワニナ

(3) 水の中の昆虫

カワゲラのなかま

ゲンゴロウ

ゲンジボタル

ミズカマキリ

川の上流の水のきれいなところにはカゲロウ，カワゲラ，トビケラなどの幼虫がいます。檜山周辺など，山ぞいの小川にはホタルの幼虫がいます。

沼などにはガムシ，ミズスマシ，ミズカマキリ，マツモムシなどがすんでいます。ただ，タガメやゲンゴロウのように，農薬などによりほとんど見られなくなった昆虫もいます。

水の中の昆虫には，きれいな水でないと生きていけない昆虫ときたない水でもだいじょうぶな昆虫がいます。だから，すんでいる昆虫の種類を調べると，そこの水がきれいな水か，きたない水かがわかります。

(4) カエルのなかま

トノサマガエル

ツチガエル

陸上と水中の両方で生活しているカエルのなかまを両生類といいます。

両生類には，カエルのようにしっぽのないものと，サンショウウオやイモリのようにしっぽのあるものがいます。

たいていの両生類は水中に卵を産みます。しかし，モリアオガエルは沼などの，水面の上にせり出した木の枝などに，卵を産みつけます。

カジカガエルは川の上流に，他のカエルは草むらや田んぼなどにすんでいます。

しっぽのある両生類は，この辺ではイモリ，トウホクサンショウウオ，クロサンショウウオ，ハコネサンショウウオの４種類が見られます。

カジカガエル

アマガエル

トウホクサンショウウオ

ハコネサンショウウオの幼生

イモリ

(5) 水辺の鳥

ゴイサギ

セグロセキレイ

ツルシギ

水にうかんだり，もぐったりする鳥を水鳥といいます。カモやカモメなどが水鳥です。

米代川の河口には冬には６種類くらいのカモメのなかまが集まります。その中にカモメという種類の鳥がいます。「市の鳥」のカモメは，カモメのなかま全部をいっているのです。

ハマシギ

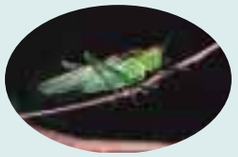
水辺で生活している鳥もいます。ダイサギやアオサギは川や沼の浅瀬に立って，そばを泳ぐ魚をとらえます。

キセキレイやセグロセキレイは，主に水辺の川原の上を歩いてえさをさがします。

小川に飛びこんで小魚をえさにしているカワセミも水辺の鳥といってよいでしょう。その他，秋に北の国から南の国へ渡って行く途中にたちよるツルシギなどのシギも水辺の鳥です。

4　野山の動物

(1) 野山の昆虫


ヤブキリ

ジャコウアゲハ

ハッチョウトンボ

野山にはたくさんの種類の昆虫がいます。それぞれの昆虫には，その昆虫なりの生活の場所があります。卵はどこに産むか，幼虫は何を食べるか，成虫の食物は何か，などによってすむ場所がちがいます。

たとえばチョウの幼虫の食べる植物は決まっています。キアゲハの幼虫はセリのなかま，モンキチョウの幼虫はマメのなかまを食べます。

草原にはバッタのなかまが，沼や湿地にはトンボのなかまがすんでいます。

また，カブトムシやクワガタはコナラやヤナギの木の樹液に集まります。山道ではオサムシやハンミョウに出会うことがあります。

その昆虫を見つけるには，その昆虫の生活の場所をさがすとよいです。

能代には，米代川流域が北限のジャコウアゲハがいます。食草はウマノスズクサですので，食草も大事に保護しなければなりません。

(2) ヘビやトカゲ

春の山菜とりのシーズンには，冬眠からさめて日光で体をあたためているヘビやトカゲのなかまを見かけます。

また，木々の葉が色づく秋には，冷たくなってきた風をさけるように，家の床下や小屋のすみでとぐろをまいているヘビを見つけます。

ヘビのなかまを，は虫類といいます。は虫類はまわりの気温によって体温が変化する変温動物です。だから，冬は体温が下がって動けなくなるので冬眠します。

イシガメなどのカメも，は虫類です。

カナヘビのことをトカゲとよんでいる人がいますがこれはまちがいです。

ヘビを見つけると石を投げたりして，いたずらをする人がいますが，やめてほしいものです。ネズミなどをえさにして，生物の数を調節する大切な役目をもっているのですから。

カナヘビ

トカゲ

シマヘビ

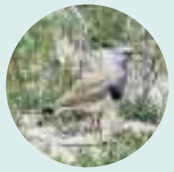
ヤマカガシ

(3) 野山の鳥

アカゲラ

オオルリ

ホオアカ


ケリ

フクロウのひな

野山の鳥を，生活の場所によって「草原の鳥」や「森林の鳥」とよびます。ホオアカなどはススキやマツがまばらに生えている開けた草原にいます。また，そんな所にはケリやオオジシギも生活しています。

キツツキのなかまのアカゲラは，「森林の鳥」に入ります。白神山地などの深い森林ではルリビタキやコルリ，クロジなどの美しいさえずりを聞くことができます。

ちょっとした林の中にもいろいろな鳥がいます。でも，身近にある林はずいぶん少なくなってしまいました。

オオジシギ

キジ

(4) 野山のほ乳類

ニホンザル

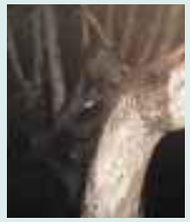
ネズミ，モグラ，コウモリの種類はよくわかっていませんが，それ以外のほ乳類にはニホンザル，ノウサギ，リス，ツキノワグマ，タヌキ，キツネ，テン，イタチ，アナグマ，カモシカ，ムササビがいます。

白神山地にはヤマネもいます。モモンガもいるでしょう。キツネやタヌキはあちこちで目撃されています。最近，ノウサギやテンが減ってきているようです。また，ツキノワグマのような森の王者でさえも環境に影響されやすい弱い動物です。守ってやりたいものです。

ヤマネ

タヌキ

ムササビ


ツキノワグマ

5 海辺の動物

(1) 能代港の動物

能代港ではクロダイ，イシダイ，アジ，ホッケ，マイワシなどが季節によって見られます。また，港の底の方には，ナマコやモクズガニが季節によって見られます。

小・中学生のみなさんの中にも，つり好きの人がたくさんいますが，つり人がなにげなくすてたつり針やつり糸が足にからみつき，足がちぎれてしまう鳥がいます。気をつけましょう。

冬から春にかけて，能代港の内側では，海にうかぶ数百羽のウミアイサという鳥を見ることができます。

(2) 砂浜の動物

落合や浅内方面の海岸は砂浜となっています。砂浜の海ではシロギス，クサフグ，マコガレイ，マガレイなどが見られます。

砂浜の海辺には動物はあまり多くありませんが，波打ちぎわをよく観察すると，小さなトビムシがはねまわっています。また，コアジサシやウミネコなどの鳥がよくやってきます。

(3) いそ浜の動物

岩館海岸は岩の多いいそ浜となっています。いそ浜の海にはナベカ，ギンポ，アイナメ，イシダイの子どもなどがいます。

クサフグ

ホンヤドカリ

アメフラシ

イボニシ

いそ浜の海辺には，実に多くの動物がいます。ヒザラガイ，ヨメガカサ，タマキビ，イボニシなどの貝のなかま，イワガニなどのカニのなかま，イソギンチャクのなかま，ムラサキウニなどのウニのなかま，イトマキヒトデなどのヒトデのなかま，カメノテ，フジツボのなかま，アメフラシ，ウミウシのなかまなどです。

岩館海岸では冬にウミウが岩の上でつばさをかわかしていたり，クロガモやシノリガモが波にうかんでいるのに出会うことができます。

コアジサシ

イソヒヨドリ

ウミウ

スナガニ

6　風の松原の動物

風の松原は「日本の自然100選」など，日本の六大百選に選ばれていて全国的に有名です。

そこはまた，動物たちにとってもすみよい場所となっています。特に陸上競技場の西側はクロマツの下にせの低い木がおいしげり，草も多いので，それを食べる昆虫や鳥などがたくさんいます。

砂丘にもかかわらず水がわき出したり，沼のようなところもありますので，水の好きな動物もいます。

クワガタムシやカミキリムシをとったり，チョウやバッタを追っている子どももいます。

地面にはものすごい数のワラジムシがいて，かれ葉をせっせと食べています。ワラジムシは風の松原のそうじ屋さんです。

せ骨のある動物で目につくのをあげると，カエルのなかまではヒキガエルです。ヒキガエルは主に夜に活動する動物ですから，夜にさがすとたくさん見つかります。主に昆虫を食べています。

ワラジムシ

ノコギリクワガタ

ヒキガエル

キビタキ

ヤマガラ

ノウサギ

ヘビやトカゲのなかまではシマヘビやトカゲに出会うことがあります。ヤマカガシやカナヘビもいるでしょう。

鳥のなかまでは，春先に北へ帰る途中のマヒワが代表的です。多いときは１万羽以上にもなります。雨が降った後，水たまりができているところがありますが，そこではいろいろな小鳥が水あびします。一度観察することをすすめます。

トビやクロツグミ，ホオジロなどがひなを育てています。オオタカもひなを育てたことがあります。

ほ乳類ではアカネズミ，リス，ノウサギ，モグラがいます。おそらくキツネやタヌキもさがせば見つかるでしょう。少しはなれていますが，浅内の茨島にシカがあらわれたこともあります。

このように能代の宝物である風の松原ですが，ジュースの空きかんをすてたりする人がいます。風の松原を大切に守っていくことがわたしたちの役目ではないでしょうか。

7　小友沼の鳥

能代市の中心部から，およそ５km南東に小友沼があります。この小友沼は，江戸時代からずっと水田のための水をたくわえておく役目を果たしてきています。沼の北側には広い水田地帯があり，南側には杉林や雑木林が広がっています。また，ヨシが沼のおくに広く生えています。

このように，小友沼のまわりには，いろいろな環境がありますから，水辺の鳥や森林の鳥など観察できる鳥もいろいろです。

鳥の好きな人にとって小友沼は全国的に有名です。それはマガンやヒシクイなどのガンが，渡りの旅の途中によっていくからです。ガンを観察できる地域は日本の中でも限られた地域だけですが，小友沼はこうした貴重な地域のひとつなのです。

２月下旬から３月中旬までがガンの観察にはよい時期です。秋から春にかけてはガンのほかにハクチョウやカモ類もたくさん集まります。秋にはサギやシギ，チドリがやってきます。

世界中から絶滅が心配されているコウノトリやクロツラヘラサギなどのめずらしい鳥が小友沼を訪れたことがあります。特にクロツラヘラサギは世界中で300羽ぐらいしかいないといわれています。わたしたちは，こうした世界的に貴重な地域をあずかっているのです。

オオハクチョウ

ヒシクイ

コサギ

朝ぎりの中のガン

ハクガン